

「九州大学エネルギーウィーク 2025」を開催しました

令和7年1月27日（月）から31日（金）の5日間にわたり、「九州大学エネルギーウィーク2025」を開催しました。

第9回目となる今回は、「エネルギー分野の英知が垣根を越えて結集：研究シーズから展望するエネルギーの未来革新技術」をテーマに、持続可能なエネルギー技術の革新とその社会実装に焦点を当て、国内外の著名な演者による講演のほか、本学のエネルギー研究教育機構(Q-PIT)、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I²CNER)や、九州地区再生可能エネルギー連携委員会、九州先端科学技術研究所（ISIT）などによるシンポジウム・ワークショップと、若手研究者・博士課程学生による研究発表を実施しました。

また、エネルギーウィークの関連イベントとして、昨年12月20日に本学の栄誉教授である吉野彰先生の講演会を、2月5日に水素材料先端科学研究センター(HYDROGENIUS)によるフォーラムを開催しました。

国内外の大学や研究機関をはじめ、産業界、行政関係者など、延べ1,350名の方に参加いただき、盛会の内に幕を閉じました。



石橋総長による開会挨拶

▼エネルギー研究教育機構（Q-PIT）▼

(1/27 Q-PIT プレナリーセッション、九州脱炭素化研究会(Q-DeCS)企業賞 授賞式)

石橋総長による挨拶で開会し、一般社団法人日本ガス協会の伊藤俊之様より「将来のエネルギー社会におけるe-メタンの役割と可能性～燃料電池から、水素・合成燃料へ～」について講演がありました。続いて、清水建設株式会社の重盛光様と北川遼様より「次世代まちづくりを見据えた『温故創新の森 NOVARE』における都市エネルギーシステムの未来デザイン」について講演が行われました。

プレナリーセッション終了後は、Q-DeCS 企業賞の授賞式が開催され、2回目となる今回は、「イムラ・ジャパン賞」を大学院工学府 応用化学専攻 博士後期課程2年の高岡 祐太さんが、「太陽誘電賞」を大学院工学府 応用化学専攻 博士後期課程3年のPhua Yin Kanさんが受賞しました。



(一社)日本ガス協会 伊藤様



清水建設(株) 重盛様、北川様



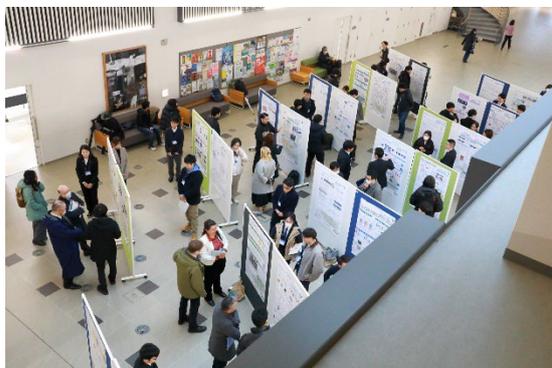
会場の様子



Q-DeCS 企業賞 授賞式

(1/27 Q-PIT フォーカストセッション A (ポスターセッション))

九州大学 未来を拓く博士人財育成プログラム (K2-SPRING) のグリーンイノベーションユニット生、宮本淳弌水素研究奨励賞受賞者、および令和6年度エネルギー研究教育機構「若手研究者・博士課程学生支援プログラム」採択者・受賞者によるポスター発表が行われ、最優秀ポスター賞を大学院総合理工学府 博士後期課程3年の酒井彦那さんが受賞しました。



ポスターセッションの様子



Q-PIT ポスター賞 受賞者

(1/28 Q-PIT フォーカストセッション B / 再生可能エネルギー連携フォーラム)

2021年に九州・沖縄地区の11国立大学で発足した「九州地区再生可能エネルギー連携委員会」の活動の一環として、「第5回 再生可能エネルギー連携フォーラム」が同委員会とQ-PITの共催で開催されました。本フォーラムでは、九州大学大学院工学研究院の松永久生教授が、「水素材料先端科学研究センターの取り組み—安全で低コストな水素サプライチェーンの構築を目指して—」と題して講演されました。続いて、九州地区の8大学から再生可能エネルギーに関する各大学の取り組みについて講演が行われました。

当日は悪天候にもかかわらず、大学関係者をはじめ、産業界からも多くの方々が現地およびオンラインで参加されました。



谷本理事



工学研究院 松永教授



園田理事



集合写真

(1/30 Q-PIT フォーカストセッション C)

前半の部では、エネルギー研究教育機構の松崎 良雄 教授より本機構における脱炭素エネルギー研究について概要説明を行った後、Q-PIT 研究推進部門の8モジュールより、各モジュール研究の概要およびこれまでの活動・成果について報告しました。

後半の「国内プロジェクト関連」セッションでは、NEDO、FC-Cubic および産業技術総合研究所から講師をお招きし、燃料電池や水素利用に関する国内プロジェクトの現状と将来の展望についてご講演いただきました。続いて、「国際共同研究プロジェクト関連」セッションでは、JST 先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE) に採択された渡邊原規 准教授と、科研費・国際共同研究加速基金の国際先導研究に採択された安達千波矢 主幹教授が、採択までの経験談を交えつつ、プロジェクトの活動内容とその意義について講演しました。

Q-PIT 主催のプログラムにおいては、2日間で約 300 名の方に現地およびオンラインで参加いただきました。



モジュール長による研究発表



NEDO 後藤様



FC-Cubic 竹内様



産総研 堀田様



工学研究院 安達主幹教授

▼公益財団法人 九州先端科学技術研究所 (ISIT) ▼

(1/29 「九州大学-ISIT-福岡市 連携グリーンTRANSフォーメーション (GX) シンポジウム ～地域の未来への展望～」)

1月29日(水)、アクロス福岡7階大会議室にて、「九州大学—ISIT—福岡市連携 グリーンTRANSフォーメーション (GX) シンポジウム～地域の未来への展望～」を開催し、96名が参加されました。

基調講演では、九州大学大学院工学研究院 立川雄也 准教授とトヨタ自動車(株)CJP 企画部石川大悟グループマネージャーが、水素エネルギーの地産地消や商業利用をテーマに講演を行いました。また、市内中小企業の脱炭素ビジネスに資する商品等の開発に対する支援事業(福岡市実施事業)にチャレンジしている企業5社による取組み紹介では、3名のファシリテーターと企業との対話を通して、GXの今後の展望を考える有意義な時間となりました。



基調講演の様子



取組み紹介の様子

▼カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I²CNER) ▼

(1/29 I²CNER アニュアルシンポジウム、1/30 I²CNER Thrust ワークショップ、I²CNER-IMI 国際ワークショップ)

1月29日(水)にI²CNER アニュアルシンポジウム「Building a Sustainable Future: Innovation and Practice for a Carbon-Neutral Society」が開催されました。本シンポジウムでは、カーボンニュートラル社会の実現に向けた技術革新と実用化に関する最新の研究成果が発表されました。国内外の研究機関から招へいされた世界トップレベルの研究者たちが熱心な議論を交わしました。

1月30日(木)のI²CNER Thrust ワークショップでは、「Toward Carbon Neutrality」と題して3つの研究Thrustからカーボンニュートラル技術に関する最新の研究成果が共有され、活発な意見交換が行われました。また、同日に開催されたI²CNER-IMI 国際ワークショップでは、様々なエネルギー問題に潜む課題の解決やカーボンニュートラル社会創生に資する応用数理の立場から研究成果が共有されました。特に統計・AI技術を軸とした研究発表が行われました。

今回のシンポジウム・ワークショップでは、2日間で約300名の方に参加いただきました。



石原所長による挨拶



アニュアルシンポジウムの様子



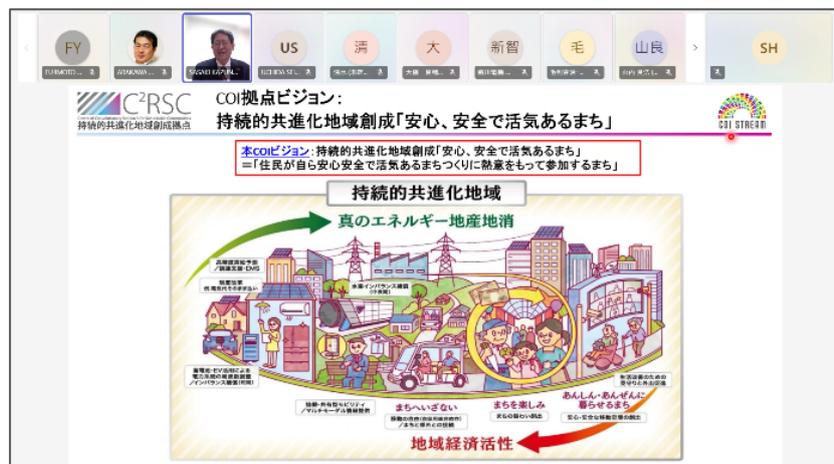
集合写真

▼九州大学 COI▼

(1/31 持続的共進化社会シンポジウム)

1月31日(金)にオンラインにて、「持続的共進化社会シンポジウム」が開催されました。本シンポジウムでは、令和3年度まで実施された持続的共進化地域創成拠点におけるビジョン主導型の研究開発を継承し、社会実装の成果をさらに展開するため活動しているCOI研究会について、佐々木一成リーダーによる活動概要説明の後、各部会のこれまでの取り組みや活動について発表がありました。

情報科学部会からは、情報技術を用いて人の行動を変えていく取り組みについて発表がありました。産業数学部会からは、産業数学の社会への展開や、合計値回帰モデルを用いた電力消費量予測の説明とさらなる社会実装の展望について発表がありました。エネルギー部会からは、燃料電池・水素エネルギーの研究開発について、知財戦略を含めた様々な社会実装の取組が発表されました。また、令和6年4月に設立された九州大学100%出資子会社の九大OIP株式会社より、本学における今後の産学官連携活動支援について紹介がありました。当日は、学内外から約25名の方々に参加いただき、意見交換も行われました。



九州大学 COI 持続的共進化社会シンポジウム

【関連イベント】

12/20 吉野 彰 九州大学名誉教授 特別講演会（エネルギー研究教育機構（Q-PIT））

2024年12月20日（金）、吉野 彰 九州大学名誉教授（旭化成(株) 名誉フェロー）をお迎えし、伊都キャンパス 椎木講堂コンサートホールで特別講演会が開催されました。講演会では、「未来を切り拓く科学の力」と題し、吉野先生の研究者としての道のりやノーベル化学賞受賞に至るまでの挑戦等についてお話しいただきました。当日は、本学の教職員や学生、地域の中高校生など、学内外から約400名と多くの方にご参加いただきました。



吉野 彰 名誉教授



Q-PIT 教員等との記念写真

2/5 九州水素フォーラム 2025（九州大学水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS））

2025年2月5日（水）、九州大学水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）、九州経済産業局及び福岡県との共催で「九州水素フォーラム 2025」が開催されました。本フォーラムでは、経済産業省資源エネルギー庁の廣田氏より水素政策の方向性について、特許庁の馬場氏より水素関連技術の特許動向について講演が行われ、水素に関する最新の政策動向や、国が目指すGX実現に向けた展望についての情報が提供されました。また、川崎重工株式会社、株式会社やまなしハイドロジェンカンパニー及び水素材料先端科学研究センターによる先進的な取り組みが紹介され、水素技術の実用化に向けた多様な事例が共有されました。

当日の会場参加者（登壇者等除く）は130名、オンラインにおける最大同時視聴者数は85名と、計215名の方々にご参加いただきました。



松永センター長による挨拶



会場の様子

【問い合わせ先】

九州大学エネルギー研究教育機構

電話：092-802-6934

Mail：eneweek★jimu.kyushu-u.ac.jp

※メールアドレスの★を@に変更してください